
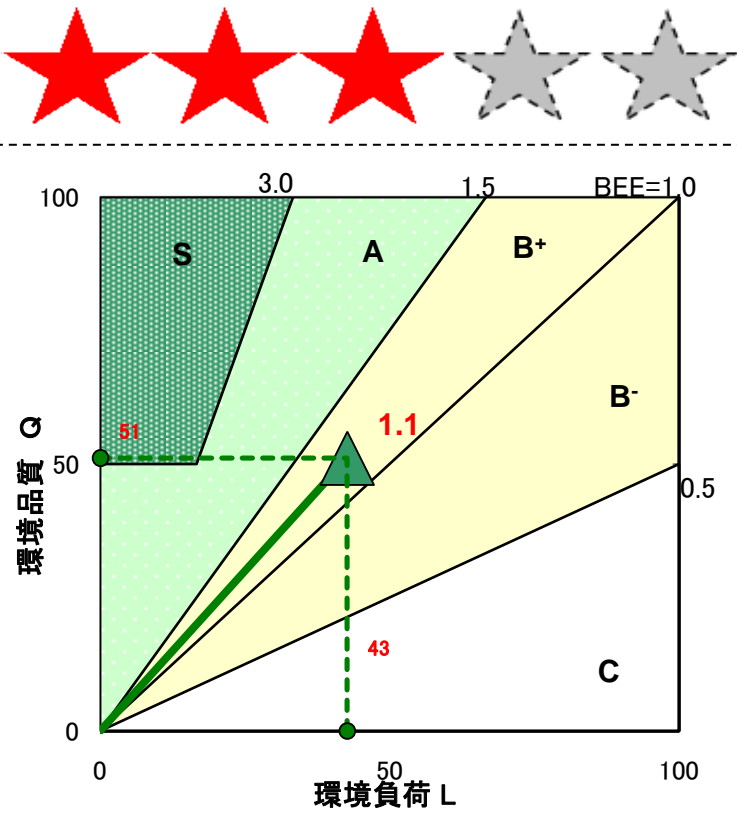


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観	
建物名称	医療法人社団 木星会 山鹿温泉リハビリテーションセンター	階数	地上4F		
建設地	熊本県山鹿市新町1204-1 他4筆	構造	RC造		
用途地域	準工業地域	平均居住人員	233 人		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2015年1月 予定	評価の実施日	2014年4月18日		
敷地面積	1,781 m ²	作成者	野中建築事務所		
建築面積	923 m ²	確認日			
延床面積	3,275 m ²	確認者			

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)




環境品質 G

環境負荷 L

BEE = 1.1

■ BEE(環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ ライフサイクルCO₂排出性能(ランク表示)



排出率

88%

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	81.7
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	61.2
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	85.7
【重点事項4】 循環型社会の実現	79.5

■ 熊本県重点評価基準

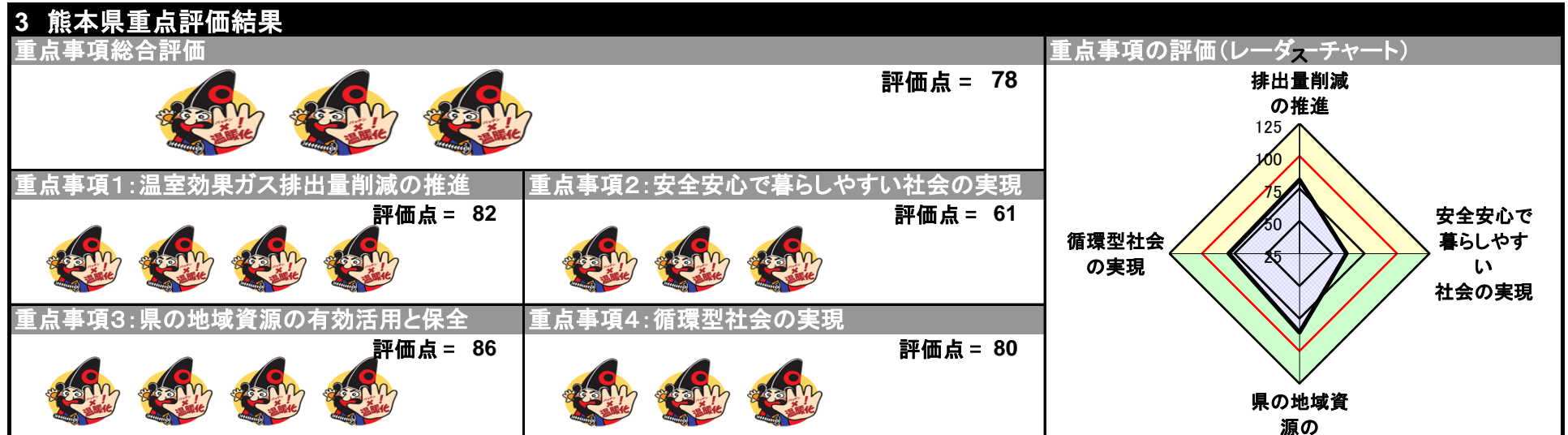
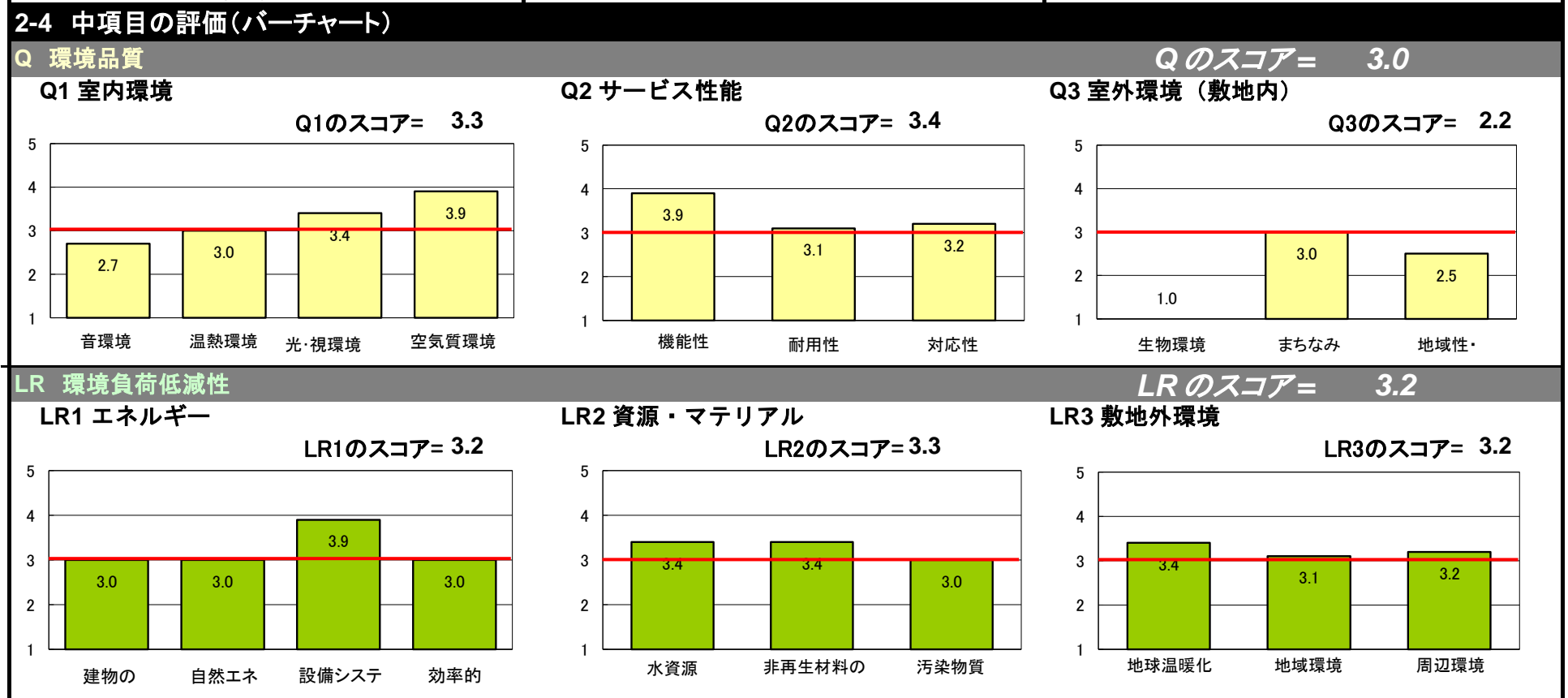
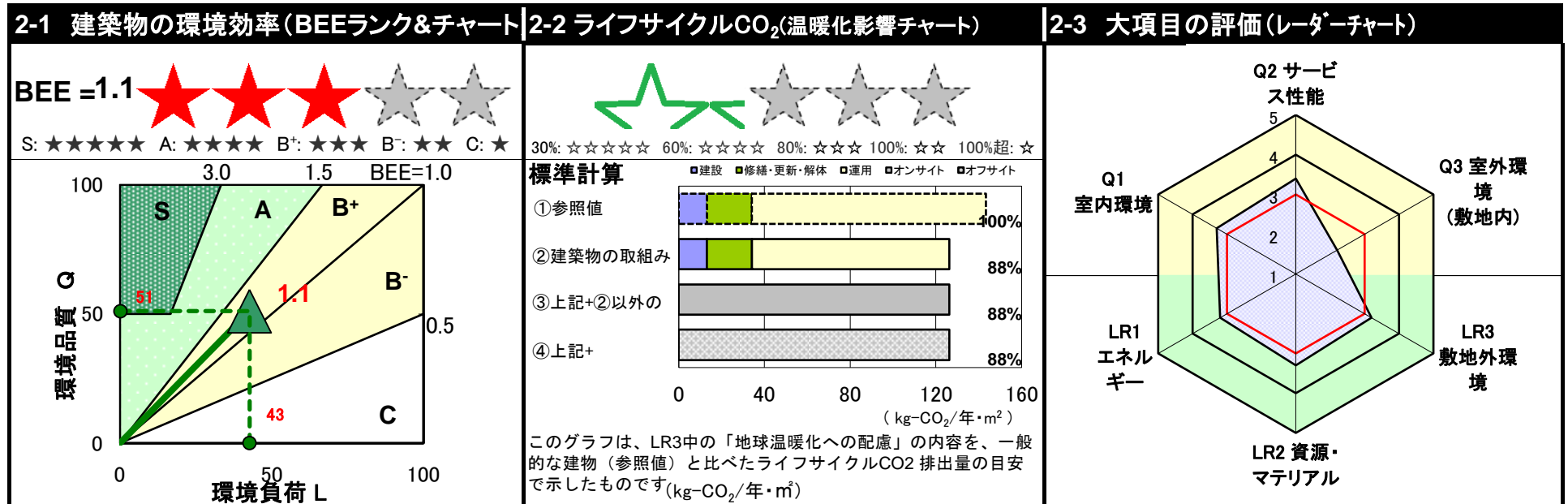
判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	医療法人社団 木星会 山鹿温泉リノ	階数	地上4F
建設地	熊本県山鹿市新町1204-1 他4筆	構造	RC造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	233 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年1月 予定	評価の実施日	2014年4月18日
敷地面積	1,781 m ²	作成者	野中建築事務所
建築面積	923 m ²	確認日	
延床面積	3,275 m ²	確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年版

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年版

医療法人社団 木星会 山鹿温泉リハビリテーション病院

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-NCb_2010(v.1.3)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.0
Q1 室内環境			0.40					3.3
1 音環境		2.5	0.15	3.1	1.00			2.7
1.1 騒音		3.0	0.40	5.0	0.40			
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	5.0	1.00			
1.2 遮音		1.8	0.40	2.4	0.40			
1 開口部遮音性能		3.0	0.40	5.0	0.30			
2 界壁遮音性能		1.0	0.60	1.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				1.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				2.0	0.20			
1.3 吸音		3.0	0.20	1.0	0.20			
2 温熱環境		2.9	0.35	3.1	1.00			3.0
2.1 室温制御		2.7	0.50	3.0	0.50			
1 室温		1.0	0.38	3.0	0.57			
3 外皮性能		2.0	0.25	3.0	0.43			
4 ゾーン別制御性	ビル用マルチ空調機による各室単位のゾーニング	5.0	0.38					
2.2 湿度制御		2.0	0.20	2.0	0.20			
2.3 空調方式	外来待合・診療室:床暖房を採用 病室:全熱交換機を採用。室内	4.0	0.30	4.0	0.30			
3 光・視環境		3.3	0.25	3.6	1.00			3.4
3.1 昼光利用		3.0	0.30	4.2	0.30			
1 昼光率		3.0	0.60	5.0	0.60			
2 方位別開口								
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40			
3.2 グレア対策		4.0	0.30	4.0	0.30			
2 昼光制御	庇、ブラインドの設置	4.0	1.00	4.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25			
4 空気質環境		4.0	0.25	3.7	1.00			3.9
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の積極的な採用	4.0	1.00	4.0	1.00			
4.2 換気		3.5	0.30	3.3	0.38			
1 換気量	中央管理方式の空調設備なし 建築基準法における換気量の1.2	4.0	0.50	4.0	0.33			
2 自然換気性能				3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33			
4.3 運用管理		5.0	0.20					
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御	建物全体が禁煙 喫煙室なし	5.0	1.00					
Q2 サービス性能			0.30					3.4
1 機能性		3.6	0.40	4.6	1.00			3.9
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60			
1 広さ・収納性				5.0	1.00			
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画		3.0	1.00					
1.2 心理性・快適性		4.0	0.30	4.0	0.40			
1 広さ感・景観				4.0	0.50			
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画	コンセプトの設定、機能の明確化 照明計画と内装計画の一体化	4.0	1.00	4.0	0.50			
1.3 維持管理		4.0	0.30					
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い仕上げ(内壁、床面、外壁)、風除室の設置など	4.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保	清掃資材、清掃用流し、ゴミ置場の設置など	4.0	0.50					
2 耐用性・信頼性		3.1	0.31					3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.48					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.33					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:ビニル床シート(20年) 壁:ビニルクロス貼(20年) 天井:ビニ	5.0	0.09					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	5.0	0.15					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23					

2.3 節の水準				-		-	
2.4 信頼性			3.4	0.19		-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備	節水型器具の採用・水槽類の二層化	4.0	0.20		-	
3	電気設備	非常用発電設備の設置・浸水の危険なし(地上設置)	4.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			3.4	0.29	3.0	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり			3.6	0.31	3.0	0.50	
1	階高のゆとり	階高:診療室3.7m 病室3.6m	4.0	0.60	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.6	0.38		-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性	構造部材を痛めることなく、修繕・更新できる。	4.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性	主要機器は屋上に配置、更新・修繕時に建物機能を維持できる	5.0	0.22		-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.2
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30		-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20		-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50		-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化		LED照明の採用	3.9	0.30		-	3.9
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=14.7%	3.0				
集合住宅の評価							
4 効率的運用			3.0	0.20		-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50		-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護			3.4	0.15		-	3.4
1.1	節水	節水コマ、節水型機器	4.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67		-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.4	0.63		-	3.4
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07		-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.25		-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.21		-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.21		-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-		-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上材が分別可能、内装材と設備の錯綜なし	5.0	0.25		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68		-	
1	消火剤		-	-		-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50		-	
3	冷媒		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		省エネ設備の導入	3.4	0.33		-	3.4
2 地域環境への配慮			3.1	0.33		-	3.1
2.1 大気汚染防止		大気汚染物質の発生なし	5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.6	0.25		-	
1	雨水排水負荷低減		-	-		-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33		-	
3	交通負荷抑制	駐車スペース・駐車施設の確保、駐車場の導入路への配慮	4.0	0.33		-	
4	廃棄物処理負荷抑制	分別回収のための整備、設備の設置	4.0	0.33		-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1	騒音		3.0	1.00		-	
2	振動		-	-		-	
3	悪臭		-	-		-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制			3.0	0.40		-	
1	風害の抑制		3.0	0.70		-	
2	砂塵の抑制			-		-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20		-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの過半を満足、広告物照明を行っていない	5.0	0.70		-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		-	

CASBEE®熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。

リハビリをメインとする病院(101床)の建替えである。バリアフリーを基本に、色彩やテクスチャーについても利用する方々にとって居心地のよい空間とする。また、八千代座を中心に歴史的な街並みを持つ山鹿市中心地から程近い立地条件を考慮し、落ち着いた外観としている。

Q1 室内環境

注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

ブラインド内蔵サッシを採用し西日対策に配慮した。化学物質発生を極力少なくすること、また臭気に対しても特に考慮した。

Q2 サービス性能

注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

将来あるかもしれない改修に対応できるよう、十分な広さの確保とフレキシブルな構造としている。

Q3 室外環境(敷地内)

注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

敷地の一部を提供歩道とする、建物前面に広い駐車スペースを確保するなど、周辺環境に考慮した。

LR1 エネルギー

注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

LED照明の積極的な採用に配慮した。

LR2 資源・マテリアル

注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

節水型機器の積極的な採用に配慮した。

LR3 敷地外環境

注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。

大気汚染防止に配慮。また敷地周辺に十分な駐車スペースを確保。広告物照明は行っていない。

その他

注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。

特になし。

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称

医療法人社団 木星会 山鹿温泉リハビリテーション病院

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v1.3)_kmt2011(v1.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2011年版

★熊本県重点評価結果				総合評価点	78.0	
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				81.7	0.40	32.68
Q1-2.1.3	外皮性能	2.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.2	昼光制御	4.0	0.05			
LR1-1	建物の熱負荷抑制	3.0	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	3.9	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				61.2	0.20	12.24
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				85.7	0.20	17.14
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.29			
LR2-1.1	節水	4.0	0.43			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.29			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				79.5	0.20	15.90
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数